

地元でも声あげる



東京・銀座で「戦争反対」「憲法守れ」とコールしながら行進する参加者＝6日

戦争法廃止共同行動

戦争法（安保法制）廃止の世論を大きく広げようと6日、東京都内で行われた「安保閣内での廃止を求める学生・学者・市民の共同行動」。参加した学生、子どもを連れたパパ、ママらは決意を新たにしていました。

多くの立見の人がでるほどになった日比谷野外音楽堂での集会。会場の端でステージを見つめていた、都内の男子高校生（18）は集会初参加です。「安倍政権のやり方には疑問がある。来年は選挙にいくるので、自分の目で見て考えます」。銀座方面へ向かったデモ行進は、赤、青、黄色の風船で飾られた2台のサウンドカーを先頭に「戦争反対」「憲法守れ」などとコールしました。

11歳と6歳の子どもをつれて行進していた

東京都府中市の鴨志田いづみさん（40）は、テレビのニュースで、戦争法反対の声をあげている人を見て「私も黙ってはいけいけい」と思いました。7月から行動するようになっただけです。「地元でもママの会をつくって、声をあげていきたい」と話しました。

戦争法廃止を求める2000万人署名の呼びかけをしている人たちもいました。

署名用紙と一緒に、返信用の封筒などが入った署名セットを配っていたのは、東京都文

京区に住む大学院生の男性です。署名セット1000部を自費で用意したといいます。「いてもたってもいられなくなりました。行動に参加しない人に署名を広げていきたい」と語りました。

信の連発

6日、東京都内でおこなわれた戦争法廃止をめざす学生・学者・市民の共同行動では、俳優の石田純一さんもスピーチ。俳優の大竹しのぶさんがメッセージを寄せました。

安全な国なせ変える

石田純一さんがスピーチ

石田さんは、集会冒頭のサプライズ・ゲストで「みなさんと勇気と共に感をかち合うためにきました」とのべ、「平和で安全な国をなせ変えるのか。理解に苦しみます」として次のように語りました。

石田純一さん（6日、東京・日比谷野外音楽堂）

「戦後70年。日本は、

自分の言葉を伝える

大竹しのぶさんメッセージ

大竹さんのメッセージを聴くすなわち、本当に安全な国をなせ変えるのか。理解に苦しみます」として次のように語りました。

「戦後70年。日本は、

いろいろな人々の犠牲の上に成り立つ、平和と自由の国であったと思っております。世界一平和で安全な国をなせ変える必要があるのか。この戦後というものを、もう何十年も何百年も続けていきたいと思います」と結びました。

「国民の理解はすん

「ボラーノの広場」から「毎人はまっとうできるとおもつ。なぜならぼくらがそれをいまかんがえているのだから」などを紹介して、「この何年か、私はいつもこの言葉を思っています」として、次のように結んでいます。

「自分の考えていることすら、発言しにくくなってきている今ですが、俳優として、そして個人としても、きちんと自分の言葉を伝えられる人間でありたいと心から思います」「集会が爽やかな雰囲気になるよう、お祈りしております」

12/7 赤坂